

文教協会報

No.688

(令和7年7月)

まなびの泉
心のかよいあい

わくわく協働活動
ぬくもり
ふるさと・再見
声 こえ VOICE
～文教のまち 大垣～
ふるさと美術散歩⑩

学校句会ライブから学ぶ……………2
地域とともにつくる子どもの笑顔（静里小学校）……………3
星和中学校PTAの活動紹介及びPTA活動への思い（星和中学校）…3
大垣市部活動地域展開……………4
アルファ世代への情報教育……………5
杭瀬川の戦い・余話……………6
「俳句のまち 大垣」を未来へ……………7
第62回 大垣市文教協会総会……………8
大垣市守屋多々志美術館を訪ねて……………8

大垣市文教協会60周年記念事業

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業

大垣市の未来について、考え、行動してみませんか？
地域の未来は自分たちでつくりあげていくものです
子どもが主人公となって、大垣市の未来をよりすてきなものにするため、このミッションに参加してみませんか？

おける 大垣市 × SDGs お化けを探せ(第2期)

誰ひとり取り残されることなく、暮らし続けることができるよう世界のさまざまな課題の解決のために
内けてつくられたSDGs。あなたたちは、SDGsを身近に感じていますか？世界だけでなく、
「私たちが暮らす大垣にも解決すべき課題があるはずです。その課題が「SDGsお化け」となって
私たちのちかくにいるとしたら…。そのお化けは私たちにしゅくたいを注いでいるのです。

「私たち お化けをばってくと、悲しむ人がたくさんふえちゃうよ」
「未来をすてきなものにしたいの？」

大垣の未来を 私たちの手で素敵いっぱいにするミッションの始まりです！
まずは、お化け探しに出かけましょう。

大垣市×SDGs お化け 第1期受賞作品



キーキ(水産) シロオバーク カタムイター イートミー ノンバックまる ゴイバー

【問合せ先】 大垣市文教協会事務局
〒503-0888 大垣市丸の内2-29
大垣市教育委員会 学校教育課 担当
電話 0584-47-8034 FAX 0584-81-2655

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業

「大垣市×SDGs お化け」を探せ(第2期)

①子ども目線で調査！
子ども目線だからこそ見えるお化け(課題)が大切
②SDGsは私たちの身近に！
見つけた課題をSDGsに結びつけよう
③お化け(課題)の特徴を調査！
特徴が見えると、お化け退治への鍵になる
④この①～③のミッションを報告書(応募用紙)にまとめよう！

→「大垣市×SDGs お化け バスターズ」(第2期) 令和8年実施予定

「SDGsお化け」とは…SDGsの17の課題を視点に自分の地域を見つめ課題を見つけ、その課題をお化けとして表現したもの。

どうしてお化けなのか？
お化け(課題の知らないもの)として表現することで、誰にとっても分かりやすい活動となるようにしていきたいと考えています。また、怖い存在であるお化けにすることで、「何もしないのではなく、解決しなければならぬ」課題であると考えて欲しいという願いが込められています。



第1期で受賞作品となった6体のお化けは、SDGsの17の目標について、上のような関連があると考えたよ。
参考にして、大垣市×SDGsお化けを探してみよう。入賞した作品は、プロのイラストレータが素敵な作品に仕上げてくれます。

【報告(応募)締切】
令和7年8月28日(木)
学校の先生に提出してね

【問合せ先】 大垣市文教協会事務局
〒503-0888 大垣市丸の内2-29
大垣市教育委員会 学校教育課 担当
電話 0584-47-8034 FAX 0584-81-2655



大垣市文教協会60周年記念事業

子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業

「大垣市×SDGsお化け」を探せ(第2期)募集が始まります！



ー 学校句会ライブから学ぶ ー

「ふるさと大垣科」は本年度、11年目を迎えました。

この10年、大垣市教育委員会では、大垣の自然や歴史、産業、俳句文化等について学ぶことを通して、ふるさと大垣に愛着と誇りをもち、大垣の素晴らしさを語ることができる子どもの育成を目指して邁進してきました。今回は、その中の俳句文化に関わる「おおがきプラン」を紹介します。

○「おおがきプラン」とは…

「おおがきプラン」は、俳句を扱うテレビ番組への出演で全国的な俳句ブームをけん引している俳人夏井いつき先生の提言により始まりました。当初、年間2つの小学校を訪問し、句会を行う「学校句会ライブ」と、夏の研修で先生方に受講していただく「教職員句会ライブ」の両輪で、先生方の俳句指導をサポートする形で始まりました。本年度からは教育現場の現状を踏まえ、年間6つの小学校で「学校句会ライブ」を行う形で、サポートを継続していくことになりました。この「学校句会ライブ」が、子どもたちに句会を楽しんでもらう機会になるだけでなく、先生方にも作句指導を学んでいただける機会になれば、と考えています。

○「学校句会ライブ」について

講師は、夏井いつき先生のご子息である家藤正人先生です。

通常の「句会」に「取り合わせ」の作句指導と講師による入賞句の選抜を加えたものが「句会ライブ」です。通常の「句会」が、選句から始まるのに対し、「句会ライブ」は、会の中で作句を行います。作句から句会を一連の流れで行うスピード感と、講師選抜の入賞句に投票し、点盛（得点集計）しながら、みんなで読み深める楽しさが魅力です。



学校句会ライブの様子

○家藤先生の指導する作句方法について

家藤先生の指導する作句方法は「取り合わせ」で、上句・中句・下句の意味がつながっている「一物仕立て」と異なり、季語とそのほかの言葉につながりがありません。

では、下の2句を比較してみてください。どちらが「取り合わせ」でしょう。

- A 大声で笑う日常クローバー
B グラウンド探す四つ葉のクローバー

正解は、Aです。次に、「取り合わせ」である、次の2句を比較してみてください。
どんな情景が浮かぶでしょう。ちなみに__部は季語です。

- C 校門に友の影あり梅雨晴れ間 ※【季語の意味】梅雨の最中にふと晴天がのぞくこと
D 校門に友の影あり梅雨曇り ※【季語の意味】梅雨時の曇り空

季語以外の言葉は同じですが、季語が変わると、「友」を見た作者の心情が違って見えませんか？つまり、「取り合わせ」における季語は、作者の気持ちを表す役割を担っているのです。

本年度の「学校句会ライブ」は、興文小学校、北小学校、上石津学園、東小学校、西小学校、墨俣小学校の6校で開催しました。ふるさと大垣科の指導計画では、4年生で「取り合わせ」に関わる「感動を俳句にしよう」という単元、5年生で「句会」を学びます。

「取り合わせ」は、個別指導への可能性も感じる作句方法です。「おおがきプラン」が多くの先生方の俳句指導の一助になることを期待します。

（文化振興課 栗原 利香）



地域とともにつくる子どもの笑顔

静里小学校 PTA会長 原 秀輔

静里小学校PTAは、PTA組織単体の取組だけでなく、静里地区社会福祉協議会を中心とした各諸団体の皆様と一緒に大きく3つの事業に参画させていただき、地域を盛り上げています。

4月には、幼稚園以下の子どもをはじめ、小学生、中学生、地域の皆様で社会福祉運動会を開催しています。百メートル競走、紅白玉入れ、パン喰い競争などを行い、子どもたちと地域の方の交流の場となっています。また、地域別対抗として静里地域15地区と学校職員で玉入れを行い、地域と学校との絆を深める機会となっています。

8月には、地域の方と子どもたちのために、夏祭りに参画しています。子どもたちが喜びそうな出店の企画をPTAでも考えます。各団体で焼きとうもろこしやかき氷、みたらし、ボールすくい等多くのお店を運営し、盆踊りを楽しみながら子どもたちの笑顔あふれる夏祭りを開催できています。

10月には、「ふれあい三代」という行事があります。地域の方と子ども、保護者との交流をさらに深めるべく、静里地区社会福祉協議会をはじめとする各諸団体、PTAが催し物を考え、折り紙の講習、竹水鉄砲の製作、ストラックアウトや読み聞かせ等を企画します。

参加事業が多いとPTAの負担も大きくなってしまいますが、静里地区関係団体の皆様との協力により負担感の軽減に努めながら、子どもたちが大きくなって心に残るような良い事業を続け、これからもPTAが地域と連携できる場を設けていきたいと思っています。



ふれあい三代の様子



福祉運動会の様子

星和中学校PTAの活動紹介及びPTA活動への思い

星和中学校 PTA会長 藤塚 茂之

星和中学校PTAでは、毎年秋に「豚汁の炊き出し」を実施しています。この活動は防災訓練を目的として約40年前から始まった活動であり、今も継続して実施されている星和中学校PTAの特色ある活動の1つで、毎年生徒たちもとても楽しみにしています。

中川防災倉庫から大鍋を借り、用具の準備や野菜のカット、皮むきなどの調理から後片付けまで、多くのボランティアの方々にお手伝いいただきながら開催しています。

毎年、防災倉庫の用具を使用することで用具の点検にもなり、また被災時の学校と地域のつながりや生徒、保護者たちの共助と防災意識の向上に役立っていると考えています。

昨今、時代の流れとともにPTAを取り巻く環境は大きく変化しています。共働き世代が増え、これまでのようにPTA活動へ参加できる保護者が減少していく中、今後は、どのように学校、家庭、地域が連携して子どもたちの成長を支えていくことができるのか、PTAの役割にも新たな側面が求められていると感じています。

しかしながら、これからの社会がどんなに変化しようとも、子どもたち自身が強くたくましく生きていくためには、無くしてはいけない教育、活動があると思いますし、約40年続いているこの活動は、今後も継続していかなくてはならない事業だと考えています。

子どもたちが星和中学校で学んだこと、経験したことを糧として、その後の人生や将来を思い描き、それぞれの幸せの実現につなげてほしいと願っています。

すべては子どもたちの笑顔とその先の幸せのために、サポートできるPTAでありたいと考えています。



生徒による配膳の様子 ご協力いただいたボランティアの方々 大鍋を使った調理の様子

大垣市部活動地域展開



1 はじめに

文部科学省では、中学校の休日部活動を学校から地域へ移行し、地域団体が主体となる「地域クラブ活動」として早期に展開することを推進しています。

国の方針スケジュール 「休日の部活動を地域活動へ！」
R5～R7改革推進期間 R8～R14改革実行期間

○地域クラブ化により解決できる課題とメリット（現在の部活動の課題）

① 生徒数減少の問題（チームが組めない・廃部になる）

➡地域クラブ化により学校の枠を超えて活動できるため、人数不足を解消できます

② 指導者の専門性と継続性の問題（顧問の異動により、生徒の活動に影響がある）

➡専門資格をもつ地域指導者による長期的・安定的な指導が可能になります

2 大垣市の取組

大垣市では令和6年度より、中学校休日部活動の地域展開を進めています。令和7年度は、まだ地域展開していない運動系部活動や文化系部活動について、検討を進めてまいります。地域展開を進める中で、指導者の確保等、新たな課題も出てきています。市として、子どもたちが運動できる機会を十分に確保するためにも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

3 【実証事業実施団体】新たに18クラブがスタート

競技	R6 発足 地域クラブ	R7 4月スタート地域クラブ
サッカー	星和FC 大垣東FC	FC WEST FC MINAMI 江並S. C 西部サッカークラブ
剣道	星桜会（大垣北部剣道クラブ）	大垣中央クラブ 大垣東クラブ 西部・赤坂クラブ
なぎなた	尚武会なぎなたクラブ	尚武会なぎなたクラブ（西部）
軟式野球	大垣中央野球クラブ 大垣東部野球クラブ 大垣北部野球クラブ	
ハンドボール（女子）	Spring Handball Club 江並&西 S Violet H. C	
バレーボール	西部バレーボールクラブ（男子）	上石津バレーボールクラブ（女子）
ソフトテニス		S-Lazo
バスケット		KOUBUN（男子）
バドミントン		大垣東 赤坂BC 星和BC
卓球		大垣南TTC 西部TC
陸上競技		大垣東陸上クラブ 陸岐道陸上競技クラブ

4 今後の展開 競技・種目ごとに次のステップで推進しています。

ステップ①
現在ある部活動を
地域クラブへ展開

ステップ②
通う学校に部活動が
ない生徒の受入

ステップ③
部活動がない新たな競技・
種目の地域クラブの設立

ステップ④
平日移行の
検討

◎大垣市のホームページ・大垣ケーブルテレビ放送の「水都ピア通信おがき」より、大垣市の地域展開について、さらに詳しくご覧いただけます。地域展開に必要な書類等も閲覧できます。

〈お問い合わせ〉社会教育スポーツ課
(TEL 47-8038)



ぬくもり

～アルファ世代への情報教育～

アルファ世代とは、幼少期からスマートフォンやインターネットに囲まれて育ったデジタルネイティブ世代のうち、2010年以降に生まれた人々を指す言葉です。

アルファ世代の多くは、スマートフォンやパソコンを自在に使いこなし、AIツールを活用します。インターネットを利用して情報を取得したり編集したりするだけでなく、プログラミングやデータ解析まで行うことができます。専門的な知識がなくても、使い慣れた情報機器に作業をさせることができるからです。こうした状況に伴い、彼らを指導する保護者や教師のデジタル活用能力が問われる場面も増えてきました。

最近の事件を見ても、未成年による高度な技術を用いた行為が問題となっています。例えば、大垣市では、高校生が生成AIを使用し、不正アクセスを試みた結果、逮捕される事例が報じられました。このような事態は、単に技術が進歩したことが原因ではなく、私たちを含めた社会全体が、情報機器の特性やリスクを十分に理解していなかったことも要因の一つだと考えられます。

アルファ世代は大人よりも自然にデジタル環境に適応します。一方で、保護者や教師の世代は、急速な情報技術の変化についていくことが難しく、指導の必要性を感じながらも効果的な方法がわからず、課題に直面することが多くあります。

このギャップを埋めるためには、教育現場においてデジタルリテラシーを「教える」のではなく、「共に学ぶ」姿勢が求められます。従来の「知識の伝達」ではなく、保護者や教師も学習者として情報機器の可能性と危険性を理解し、生徒とともに活用方法を模索することが重要です。例えば、授業の中でAIツールの活用を実



際に試し、その長所と短所を議論する機会を設けることが有効です。家庭でも、親子で情報セキュリティにつ

いて話し合い、一緒に設定を確認することができます。

また、法規制やルールの整備だけでなく、「デジタル倫理」の教育も必要です。技術の発展に伴い、単に「使い方」だけでなく、「使うべきかどうか」を判断する力を育むことが求められます。若者が技術を正しく活用し、創造的な活動に役立てられるよう、大人たちも積極的に学び、対話を続ける必要があります。

「情報リテラシー」という言葉は日本でも広く認識されていますが、日本での理解は一般的に「情報機器を扱う能力」や「コンピュータを利用するスキル」に重点が置かれています。しかし、国際的には、情報環境全体から必要な情報を取得する能力全般を指し、コンピュータを用いた情報環境だけでなく、図書館なども含めた一般的な情報利用環境での活用能力も含まれています。また、「必要な情報を取得する過程を評価する能力」や「情報の背後にある問題を認識する能力」なども含まれます。

学校教育の現場に目を向けると、アルファ世代が情報機器とどのように向き合っているのかについて、さまざまな課題が浮かび上がります。大人は、未成年によるトラブルが発生すると、「危険だから使わせない」「監視しなければならない」という意識をもつことが多いです。しかし、アルファ世代の視点から見ると、身の回りに情報機器があふれているにもかかわらず、自主的に学ぶ機会を奪われることで、隠れて使用するようになってしまいます。その結果、大人とともに失敗や成功を繰り返しながら学ぶ機会がないまま、情報機器を扱う能力が向上し、「デジタル倫理」が十分に育たない状態で軽率な行動を取ってしまう悪循環に陥る可能性があります。

私たち大人がすべきことは、監視ではなく、デジタル機器との健全な関わり方をともに学び、アルファ世代と新しい技術について理解を深めながら、適切な活用方法を身に付けることです。その過程で、自分にも社会にも有益な使い方を考える習慣を養うことが重要です。

(大垣市教育総合研究所 情報・研修センター
高木 至)

杭瀬川の戦いという、関ヶ原合戦前日の9月14日午後に行われた戦いで、西軍の島左近が活躍し、東軍の野一色頼母が討死したということとで知られています。この戦いでは、島左近が巧みに東軍をおびき寄せて、伏兵をもって打ち破ったことでも有名です。ただ、杭瀬川の戦いでは、西軍の島左近だけが活躍したのではありません。東軍でも活躍した部将はいたのです。

臼杵市立臼杵図書館所蔵の「くいせ川合戦図」は杭瀬川とその周辺の様子を文字で示すものですが、東軍の稲次右近と西軍の横山監物との戦いが、断片ながら書かれています。稲次右近とは、東軍・有馬豊氏配下の部将で、横山監物は西軍・石田三成配下の部将です。

1 「くいせ川合戦図」

これを見ると、曲がりくねった杭瀬川の流れが書かれ、中央には、交差する一本の線があります。線は「勝山」から杭瀬川を越えて、その先「取出有（とりであり）」とした丸印「くいせ川合戦図」坂東作図で止まります。これは、東軍・稲次軍が攻めたルートを示したようです。この取出は西軍のものと考えられます。右近は部下を連れて突撃し、中でも岡本弥三郎、篠瀬左太夫、浅野善兵衛の3人が先鋒で進みました。取出のところには「敵馬上三人有」「岡本鑓ヲ付カクル」とあるように、3人がまず突撃し、中でも岡本弥三郎が先手で鑓を突いたのでしょう。この付近は、田んぼでぬかるんでいたと思われますが、馬で突撃したことがわかります。その取出の北側では駿河衆の戦いが示されており、この付近一帯で激しく戦われたことがわかります。



2 右近と監物の戦い

その後の戦いについては、図の左下に文字で

書かれています。その内容は右近たちが杭瀬川付近で、監物たちと戦いになった様子です。わかりやすく紹介すると以下のようなのです。

「(稲次) 右近が川まで退くところを、(横山) 監物が川堤まで追いかけていった。右近は取って返し鑓で突いた。その時、監物の家来の花之木が、監物の脇にいて助けるが、監物は突き落とされる。右近は花之木と組み打ちになる。そこへ、右近の家来の岡本が助けに入る。監物は堤へ這い上がり、鑓を右近につける……」このように、家来も含めた4人が入り乱れた組み打ちの様子が記されています。

この戦いについて『落穂集』(江戸時代中期作)でみますと、はじめは右近と監物は馬上で戦っていましたが、後に双方とも馬から降りて、組み打ちになりました。監物が右近を組み伏せて上に乗ったところ、右近の家来が駆け寄って、監物の具足を引っ張りました。そこで力を得た右近は、足で監物を跳ね返し、逆に乗りかかろうとしました。今度は監物の家来が助けに来て、右近の甲を引きはがそうとしました。そこへ右近の家来が斬り付け、その勢いで右近は監物の首を取ったとされています。合戦図によりますと、右近が監物の首を取った場所は、野一色頼母が討死した場所のすぐそばでした。

3 合戦後の稲次右近

杭瀬川の戦いでは、島左近の策略で野一色頼母が討死するなど、西軍の勝利となりました。ただ、稲次右近が横山監物を討ち取ったことは、家康から大いに賞賛されることになりました。関ヶ原合戦東軍勝利後の12月、主君の有馬豊氏(たなばふくちやま)が丹波福知山8万石に加増転封されると、右近は知行3000石に加増され、城代になっています。その後豊氏が、九州の久留米21万石の大名になった時には、老齢ながら島原の乱にも出陣して、そこで戦死しました。

(大垣市立図書館 歴史研究グループ 坂東 肇)

「俳句のまち 大垣」を未来へ

大垣市教育委員会 文化振興課 俳句指導員 星野 勝

1 はじめに

今を遡ること330年あまり。ご存知のとおり元禄の時代に、松尾芭蕉は「奥の細道」の旅の終着地としてここ大垣の地を選びました。当時、俳諧を通じて芭蕉と親交のあった多くの俳人が芭蕉を温かく迎え、旅の疲れを癒したとされています。2週間ほど逗留した後、桑名へと向かいました。その際、芭蕉を見送ったとされる船町に、平成24年4月オープンしたのが「奥の細道むすびの地記念館」です。



奥の細道むすびの地記念館

2 奥の細道むすびの地記念館

当施設は、芭蕉の真筆資料をはじめとするさまざまな関連資料を所蔵し、常設展示に加え、企画展、各種関連講座などを通じて、歴史や文化の魅力を発信し続けています。「奥の細道」の章段を、関連資料とともに丁寧に解説するコーナーや、芭蕉の人となりやさまざまなエピソードを交えて紹介するコーナー、芭蕉と大垣との深いかかわりを紐解くコーナーなどの常設展示は、来館する多くの方々から高い評価をいただいています。

また、記念館周辺は、四季を通じてさまざまな景色を見せてくれます。自然も豊かで、俳句を愛好する人々にとっても魅力ある地であり、吟行に訪れる方も数多く見られます。市内はもとより、近郊の俳句結社の皆さんの句会会場としても活用されています。また、「投句コーナー」や、全国の結社から届く100を超える俳句雑誌を配架した「俳句コーナー」も魅力の一つです。

館内には商業施設である「芭蕉庵」があり、地元の名産や関連書籍、企画展図録、俳句関連グッズなども販売されています。また、お休み処として軽食や飲料を提供するコーナーもあり、一息つける場所となっています。

このように、研究者や俳人、俳句愛好家はもちろん、旅行者の方々など、年間を通じて数多くの来館者が訪れる施設となっています。

3 俳句のまち 大垣

こうした背景をもつ大垣は、以前から俳句に力を注いできました。幅広い年齢層に焦点を当てた、以下の取組を継続して行っています。

(1) 児童生徒対象の事業

①ふるさと魅力体験事業



市内で希望のあった学校の6年生が実際に記念館を訪れ、展示見学や俳句作りを体験します。

②子ども俳句教室

市内在住の小中学生を対象に参加者を募り、講師を招いて年間5回にわたって開催しています。



(2) 一般対象の事業

①十六万市民投句

直接投句だけでなく、インターネットによる投句も含め、優秀作品を選句、公表します。毎月一般で600句、小中で1500句ほどの投句があります。

②各種俳句教室や句会

初心者向け「三尺俳句教室」、中・上級者向け「大垣芭蕉交流句会」のほか「英語俳句教室」といったさまざまな取組も行っています。



③関連行事

「大垣芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」「春の芭蕉祭」は、全国から多くの方が参加されます。また、高校生が参加する「俳句甲子園」予選、「高校生東西俳句決戦」などの会場としても利用されています。

4 未来につながる俳句のまち 大垣へ

高齢化に伴い、俳句人口の減少が切実になってきています。俳句に触れる裾野を広げ、「世界一短い17音の詩 俳句」を通じて、多くの人が集う大垣を願っています。



～ 文教のまち 大垣 ～

第62回 大垣市文教協会総会

令和7年5月30日（金）大垣市情報工房において、第62回大垣市文教協会総会を開催しました。会場にて参集された役員、特別会員の皆様、各学校・各園の代表の皆様に加え、学校・各園の教職員、賛助会員の皆様とをオンラインでつなぎ、総勢800人を超す会員の皆様にご参加いただきました。

第1部の総会では、市長 石田 仁様からご祝辞を頂戴しました。小川 信也会長は、「文教協会60周年記念事業」についての報告、今後の活動に向けての展望について述べられました。続いて、令和6年度事業並びに決算報告、令和7年度事業計画並びに予算が報告されました。そ



第1部 総会の様子

して最後に、令和6年度教育実践研究論文で戸田氏庸賞を受賞された、川並小学校 伊藤 俊教諭より、協働的な学びを通して主体的に問題解決に向かう児童の育成について、発表をしていただきました。

第2部では、「愛着障害と発達障害の理解と支援」というテーマで、和歌山大学教育学部心理学教室 教授 米澤 好史 様よりご講話いただきました。よく混同される発達障害と愛着障害の現れ方の違いや、支援の違いを具体的に示していただいたことで、今後子どもたちへの支援のイメージをもちながら耳を傾けられた方も多かったことでしょう。



第2部 米澤 好史様のご講話の様子
(文化振興課 栗原 利香)

ふるさと美術散歩⑩ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《二河白道》昭和57年（1982）（大垣市蔵）

二河白道とは、極楽浄土に往生する道筋を例えた仏教語で、中国・唐の善導が著した『観無量寿経』の註釈書である『観無量寿経疏』で、この比喩が説かれています。わが国では法然や親鸞がその著書で引用・言及し、浄土信仰者の信仰心を励ますために絵画化され、広く流布しました。

奈良国立博物館所蔵の《絹本 著色 二河白道図》は重要文化財に指定されており、特に有名です。

画面の上方に極楽浄土（彼岸）、下方に現世

（此岸）を描き、これを一筋の道が通らないでいます。この道の右からは貪欲を表す水の河、左からは怒りを表す火の河が迫ってきます。後ろからは追手が迫っており、退くこともできず、一心に白道を進むと浄土に辿り着けると言います。

守屋は、壇ノ浦で入水して果てた平家一族の女性と子どもの秘話から、白道を一心に進む姿として描いています。その中でただ一人、こちらを振り返る女性がありますが、何を思っているのか、我々に問いかけます。ひょっとしたら、争いの絶えない世の中を嘲笑っているのかもしれない。

日本画としては珍しく、左右対称に、そして白道の手前は太く、奥は細くなるよう三角形の構図を用いています。大胆な遠近法で安定感のあるダイナミックな画面づくりは、守屋ならではのと言えるでしょう。

企画展「描き残すべきこと～守屋が描く戦中・戦後」
会期：令和7年7月19日（土）～9月23日（火・祝）
守屋が中国戦線に従軍して描いたスケッチや海軍戦史、戦後の平和な時代に描いた弔いの作品などを中心に展示。

